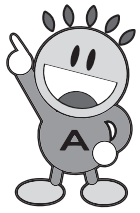
令和８年11月　朝日町教育委員会

子どもたちの「人間力」向上に向けて

～令和８年度全国学力・学習状況調査の結果分析より～



今年４月に小学校６年生・中学校３年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果・分析と今後の取組をお伝えします。今年度も、すべての教科（国語、算数・数学、英語）で、全国の平均正答率・スコアを上回り、おおむね良好な結果となりました。朝日町教育委員会では、今回の結果から分かる児童生徒の「強み」と「弱み」の分析を行いました。この調査結果を生かして、本調査で測られる一部の学力だけでなく、予測困難な厳しい社会のなかでも、自ら未来を切り拓いて生きていく力＝「人間力」を総合的に養うことができるよう、具体的な施策に反映していきます。保護者・地域の皆様にも、人間力の育成に向けてご協力をお願いいたします。

【調査結果】平均正答率・ＩＲＴスコア（中学校英語）を全国結果と比較したもの

	小学校【６年生】	中学校【３年生】
国　語	◎	◎
算数・数学	ほぼ同じ	☆
英　語	実施していません	☆



（ほぼ同じ：±１ポイント　○高い：＋2～５ポイント　◎かなり高い：＋6～10ポイント　☆きわめて高い：＋11ポイント～）

＜小学生＞

【国語】　問いを理解して論理的に記述できていましたが、複数の意味が含まれている複雑な文を読み取る力はまだまだのびしろがあります。

【算数】　十分に理解が進んでいる児童が多い一方、つまずきがみられる児童の割合も高く、個に応じた学習支援が必要です。

＜中学生＞

【国語】　全体的に正答率が高いものの、記述力・表現力にはのびしろがあります。

【数学】　全体的に正答率が高いものの、数学的な考え方や判断の根拠を道筋立てて示す力にはのびしろがあります。

【英語】　全体的にスコアが高いものの、知識・技能を実際のコミュニケーション場面で活用する力に向上にはのびしろがあります。

児童生徒質問紙から　学習状況や生活習慣について

＜小学校＞

学校の舵取りと家庭のサポートにより、良好な家庭での学習習慣が定着しています。また、対話を意識した授業づくりをすすめることで、みんなで学んでいるという実感が育まれています。一方で、教員からのサポート感や相談のしやすさを感じにくい児童が多い点が課題です。

今後は、対話を大切にした授業をさらにすすめるとともに、結果だけでなく挑戦や努力の様子を具体的に認め、応援する声かけをすすめます。また、教員が児童の困り感に寄り添い、安心して生活・相談できる環境づくりをすすめながら、引き続き家庭と協力したトータルな支援に取り組んでいきます。